

平成24年度病害虫発生予察予報第2号(5月)

《予報の概要》

作物名	病害虫名	予想発生量
水稲(早期稲)	イネミズゾウムシ ツマグロヨコバイ ヒメトビウンカ	並 並 並
水稲(普通期稲)	もみ枯細菌病 苗立枯病 イネミズゾウムシ	やや少 やや少 並
カンキツ	かいよう病 そうか病 ミカンハダニ カメムシ類	やや少 並 やや少 やや少
促成キュウリ	べと病 灰色かび病 うどんこ病 褐斑病 つる枯病 黄化えそ病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	並 並 <u>やや多</u> 並 <u>多</u> <u>多</u> <u>多</u> 並
促成ナス	青枯病 すすかび病 黒枯病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	少 <u>やや多</u> <u>やや多</u> 少 <u>多</u>
促成ピーマン・シシトウ	うどんこ病 斑点病 黒枯病 アブラムシ類 タバココナジラミ ミナミキイロアザミウマ ハダニ類	並 <u>やや多</u> 並 並 やや多 少 <u>多</u>
促成トマト	灰色かび病 葉かび病 すすかび病 トマト黄化葉巻病 タバココナジラミ	<u>多</u> 少 <u>やや多</u> やや少 並

I 気象予報(高松地方気象台 平成24年5月4日発表)

＜予想される向こう1か月の天候＞ 5月 5日から6月 4日

天気は、数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多い見込みです。

向こう1か月の降水量は、平年並または少ない確率40%です。日照時間は、平年並または多い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は平年並または高い確率ともに40%です。

＜確率＞

(単位: %)

期 間	要 素	予報対象 地 域	低 い (少ない)	平 年 並	高 い (多い)
1ヶ月	気 温	四国地方	30	30	40
	降 水 量		40	40	20
	日照時間		20	40	40
1週目	気 温	四国地方	20	40	40
2週目			30	40	30
3～4週目			30	40	30

＜予報の対象期間＞

1か月 : 5月 5日(土)～6月 4日(月)

1週目 : 5月 5日(土)～ 5月11日(金)

2週目 : 5月12日(土)～ 5月18日(金)

3～4週目: 5月 19日(土)～6月 1日(金)

II 病虫害発生予想

1. 早期稲の病虫害

1) イネミズゾウムシ

予 想 発生時期:並 / 発生量:並
根 拠

(1) 越冬密度調査での食害率、寄生成虫数ともに平年並で、4月下旬の県中央部の予察田における食害及び寄生虫数も平年並である。また、向こう 1 か月の気象予報では気温は平年並が高いと予想されることから、平年並の発生と思われる。

対 策

(1) 育苗箱で未防除のは場で発生が多い場合は、周辺作物への飛散に注意し薬剤防除を行う。

2) ツマグロヨコバイ、ヒメトビウンカ

予 想 発生時期:並 / 発生量:並
根 拠

(1) 耕起前の越冬密度調査では、ツマグロヨコバイ、ヒメトビウンカともに平年並の発生で、予察田でもまだ確認されていないことから極端な増加はなく、発生量は平年並と思われる。

対 策

(1) 育苗箱で防除していないは場で発生が多く見られた場合は、ウイルス病対策もかねて周辺作物への飛散に注意しながら薬剤防除を行う。

2. 普通期稲の病虫害

1) もみ枯細菌病

予 想 発生時期:並 / 発生量:やや少

根 拠

- (1) 現在のところ持ち込みの状況や聞き取り等でも特に発生が多い情報はないことから、平年に比べ少ない発生で、今後も大きく増加することはないと思われる。

対 策

- (1) 育苗期間中は、温度管理や灌水を適正に行う。

2) イネミズゾウムシ

予 想 発生時期:並 / 発生量:並

根 拠

- (1) 越冬密度調査での食害率、寄生成虫数ともに平年並で、4月下旬の県中央部の予察田における食害及び寄生成虫数も平年並である。また、向こう 1 か月の気象予報では気温は平年並か高いと予想されることから、平年並の発生と思われる。

対 策

- (1) 例年発生の多い地区では苗箱処理剤による防除を行う。
(2) 育苗箱での防除をしてない場合は、本虫の密度が10株当たり2頭を超えている場合、周辺作物への飛散に注意しながら薬剤防除を行う必要がある。

3. カンキツの病害虫

1) かいよう病

予 想 発生時期:並 / 発生量:やや少

根 拠

- (1) かいよう病の越冬病斑は少なかったが、発芽期以降の降水量は平年よりやや多かったことから、発病に好適条件下にあった。しかし、向こう1か月の気象予報では病徴を助長する要素は少なく、新梢への感染は少ないものと思われる。

対 策

- (1) 既発園地では新葉展開期に予防的な薬剤散布を行って、春葉への感染を防ぐ。特に、本病に弱い品種や幼木は防風対策を十分に行い、薬剤防除を徹底する。

2) そうか病

予 想 発生時期:並 / 発生量:並

根 拠

- (1) 病害虫発生予察園(無防除)において、新葉への感染が見られるが、向こう1か月予報では気温は平年並か高い、降水量はやや少なく、日照時間は多いと見込まれることから、今後は極端な増加はなく、現在の発生状況で推移すると思われる。

対 策

- (1) 降雨により発病が蔓延するので、降雨前後の薬剤防除を心がける。

3) ミカンハダニ

予 想 発生時期:並 / 発生量:やや少

根 拠

- (1) 病害虫発生予察園(無防除)及び慣行栽培園ともに、4月下旬現在の発生は認められない。
(2) 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高く、降水量は少ないことが予想されることから、増加傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 冬期にマシン油乳剤の散布を行っていない園地では、気温の上昇とともにミカンハダニの発生が予測されるので、発生状況の把握に努める。

4. 促成キュウリの病害虫

1) 黄化えそ病

予 想 発生時期:並 / 発生量:多

根 拠

- (1) 現在、県内全域で発生面積が徐々に増加し、特に中央部で発生面積が多く、程度も高くなっている。
- (2) 向こう1か月の気象予報では晴天の日が多いと思われ、ミナミキイロアザミウマの活動も活発になることが想定されることから、今後も増加傾向で推移すると思われる。

対 策

- (1) 発病株は感染源になるので除去する。
- (2) ミナミキイロアザミウマの防除を徹底する。詳細はミナミキイロアザミウマの項参照。
- (3) 栽培の終了時には、保毒した虫が飛散しないように蒸し込み等を徹底する。

2) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生時期:並 / 発生量:多

根 拠

- (1) 現在の発生面積は県中央部で多く、他地域は平年並である。
- (2) 向こう1か月の気象予報では晴天の日が多いと思われ、温度の上昇にともなって、活動も活発になることが想定され、また、薬剤感受性が低下しているという情報も多く、増加傾向が懸念される。

対 策

- (1) 薬剤散布に当たっては、生長点付近や葉の裏表に十分かかるよう心がけ、同一薬剤や同じタイプの薬剤の連用は、感受性低下の恐れがあるので避ける。
- (2) 栽培終了時には蒸し込みの徹底等、保毒した虫の飛散防止に努める。

5. 促成ナスの病害虫

1) 黒枯病

予 想 発生時期:並 / 発生量:やや多

根 拠

- (1) 現在、県内全域で発生程度はやや高～高であるものの、発生面積は平年並である。
- (2) 向こう1か月の気象予報では病勢を助長する要素は少ないが、温度の上昇にともなって、やや増加傾向で推移すると思われる。

対 策

- (1) 多発する前に早めの防除に努める。また、耐性回避のため同一薬剤の連用は避ける。
- (2) 伝染源である罹病葉は早めに除去する。
- (3) できるだけ湿度を下げる工夫をし、適切な肥培、水分管理を行い草勢の維持に努める。

2) すすかび病

予 想 発生時期:並 / 発生量:やや多

根 拠

- (1) 現在、県内全域で発生面積が増加中である。
- (2) 向こう1か月の気象予報では病勢を助長する要素は少ないが、現状の発生が多いことからこの状態で推移すると思われる。

対 策

- (1) 多発する前に早めの防除に努め、耐性回避のため同一薬剤の連用は避ける。
- (2) 伝染源である罹病葉は早めに除去する。
- (3) 25℃内外で多湿条件が発病に適するため、換気や水管理に注意し、ハウス内の除湿に努める。

3) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生時期:並 / 発生量:少

根 拠

- (1) 現在、県内全域で発生が見られるものの、被害面積、被害程度とも低く、今後も低レベルで推移すると思われる。
- (2) 向こう1か月の気象予報から、現状維持で推移すると思われる。

対 策

- (1) 感受性低下を回避するため同一系統薬剤の連用は避ける。

- (2) 薬剤防除だけでなく、青色粘着資材等の物理的防除法や天敵防除も利用し、ハウス内での密度低減に努める。

4) タバココナジラミ

予想根拠 発生時期:並 / 発生量:多

- (1) 現在、県内全域で発生が見られるが、天敵防除の普及により、発生程度は低く、栽培上は問題になっていない。
(2) 向こう1か月の気象予報や現在の発生状況から、現状維持で推移すると思われる。

対策

- (1) 高密度になると防除が困難となるため低密度から防除を行うとともに、感受性低下回避のため同一系統の薬剤の連用は避ける。
(2) 薬剤防除だけでなく、黄色粘着板などの物理的防除法や天敵防除も利用しハウス内での密度低減に努める。

6. 促成ピーマン・シシトウの病害虫

1) 黒枯病

予想根拠 発生時期:並 / 発生量:並

- (1) 現在、県中西部で発生が多くなっている。
(2) 向こう1か月の気象予報では病勢を助長する要素は少ないが、現状、発生面積、発生程度とも増加傾向であることから、この状態で推移すると思われる。

対策

- (1) 多発する前に早めの防除に努める。また、耐性回避のため同一薬剤の連用は避ける。
(2) 伝染源である罹病葉は早めに除去する。
(3) できるだけ湿度を下げる工夫をし、適切な肥培、水分管理を行い草勢の維持に努める。

2) タバココナジラミ

予想根拠 発生時期:並 / 発生量:やや多

- (1) 現在、県内全域で発生しており、一部で高い寄生株率の地域もあり、今後気温の上昇により発生量は増加すると思われる。

対策

- (1) 薬剤散布に当たっては、葉の裏表に十分に薬剤がかかるよう心がけ、下葉にも十分に散布する。また、同一薬剤や同じタイプの薬剤の連用は、感受性低下の恐れがあるので避ける。
(2) 薬剤防除だけでなく黄色粘着板などの物理的防除や天敵防除も取り入れ、ハウス内での密度低減に努める。

7. 促成トマトの病害虫

1) 灰色かび病

予想根拠 発生時期:並 / 発生量:多

- (1) 現在、県内全域で発生している。
(2) 向こう1か月の気象予報では病勢を助長する要素は少ないが、現状、発生面積、発生程度とも増加中であることから、この状態で推移すると思われる。

対策

- (1) 蔓延後は防除が困難なので予防散布に努め、耐性回避のため同一薬剤の連用は避ける。
- (2) 菌の侵入源となる花卉や古葉はこまめに除去する。

2) トマト黄化葉巻病

予 想 発生時期:並 / 発生量:やや少
根 拠

- (1) 防除対策の徹底もあり発生面積、発病株率とも少ない。
- (2) 向こう1か月の気象予報では病勢を助長する要素は少ないが、媒介虫のタバココナジラミの増加が予想されることから、増加傾向で推移すると思われる。

対 策

- (1) 感染源になる発病株は見つけ次第除去し、媒介虫の防除を徹底する。媒介虫の防除はタバココナジラミの項を参照。

3) タバココナジラミ

予 想 発生時期:並 / 発生量:並
根 拠

- (1) 現在、平年より少発生であるが、気温の上昇とともに増加傾向で推移すると予想される。

対 策

- (1) 薬剤散布に当たっては、葉の裏表に十分に薬剤がかかるよう心がけ、下葉にも十分に散布する。
また、同一薬剤や同じタイプの薬剤の連用は感受性低下の恐れがあるので避ける。
- (2) 栽培終了時には蒸し込み等を行い、保毒した虫の飛散防止に努める。

県民の皆様に提供する農作物の病虫害防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

1. 病虫害防除所ホームページ（こうち農業ネット）：<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/byoki/boujoshou/>

- ①病虫害発生予察月報、病虫害発生予察予報
- ②病虫害発生予察注意報、病虫害発生予察警報、病虫害発生予察特殊報
- ③病虫害発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病虫害 etc.

2. こうち農業ネットサービス※※当方で提供する情報の閲覧は無料です（通信料は別途必要となります）。

・携帯電話を使った病虫害関連情報（どなたでも利用可能です）

- <http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/i/>（Iモード）
- トップメニュー→地域情報→タウンガイド・行政→高知県庁メニュー→農業情報：（ezweb）
- 四国メニュー→タウン情報・行政→高知県庁メニュー→農業情報：（ヤフー）

- ①病虫害発生予察情報（概要）